

## 今月の14首

佐佐木幸綱・選

耕して蒔いて育てて刈り入れる円環をつなぐより他はなし

集団を鼓舞する言語 みつめつつひとりひとりにかたることのは

石棺と遺跡めきたる名で呼ばれる原子炉にあと幾百の春

チラーヂンSを造れる工場の稼働止みたり震災の後に

ヒロシマとナガサキのある国になぜ原発があるのかと問われおり

子の妻と孫の二人がたずねくる停電の夜に湯たんぽ持ちて

褒められてまた褒められてわつと散る朧夜のこのさくら天井

乗客のぬぬバス二台が停まりある散りさうで散らぬ桜の下に

色刷りの名刺が置かれ留守中に虹がかかったらしいと知れる

人の死を空想する悪辣、レビレートは切なく甘美に聞こゆ

みなその春をあなぐるカモの首忍ぶる恋のひよいと顔だす

胎内で生まれ来し時間刻む みどりごのほそき皺深きゆび

制服を着る子の指先定まらず桃の徽章がころんと笑ふ

有名な人もそうでない人もサインこれでもかと貼られあり

河野 千絵

本田 一弘

大里 晃代

長嶺 元久

美帆 シボ

河野 文子

花 美月

加利川友子

武藤 義哉

真田 裕子

屋良健一郎

山口 明子

児島 昌恵

久松 洋一